

# カート

ネろ号

1975.10.19

連絡先  
柳 利夫  
92-8808

オ12回東村山市民運動会の硬式テニス大会は、去る9月7、14、21日の三日間にわたって、市営コートで行なわれました。今年は、男子、女子ダブルスに加え、混合ダブルスが初めて組まれました。参加者は、男子49組、女子17組、混合市民テニス大会室に参加された方も混合に出ていました。

この大会は市ウことで、優勝者には銀、三位者には銅、最上メンバーで杯技を競い合いには前東村山体元テニ杯送出並び芳郎氏も一日中た。

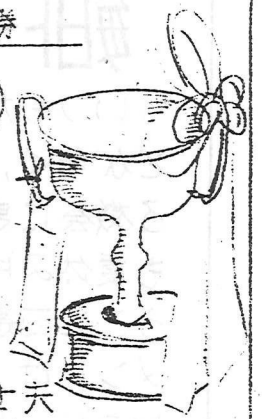
今年は、初参立ちました。私も多勢の方々た。中でも、恩多クラブの荒瀬・山本組がオニシードの小田・井上組(明幸)を破り708にくだったことは特筆すべきことです。他のペアも良く奮戦しました。女子では、昨年同様私達のクラブの活躍で、優勝をものにすることができました。また、初めての混合でも、女子の活躍が目立ち、初優勝をもたらすと同時に、各ペア共奮戦の仲通り、気合の合った好試合を展開しました。私達のクラブについては、今年も女性上位と相成りました。男子の一層の奮起が望まれます。そのためにも、全体のレベルを引き続き上げると同時に、より一層の上達をめざして、より効果的な練習方法で、練習する機会が増えてきたように思われます。

## 女子健闘 男子健闘 上位ゆるぎ ならず

民運動会とい者には、カッと金、準優勝には銅のメダあって各組共のぞみ、なりました。初日育協会々長のに監督の太田観戦されまし

如の方々が目達のクラブが参加しまし

	優勝	準優勝
男子ダブルス	(石川) (鈴木)	(高崎) (小池)
女子ダブルス	(武谷) (喜沢)	(山口) (中風)
混合ダブルス	(武谷) (小田)	(武谷) (喜沢)



### 眠り札ぬ夜

夜中に目が覚める。何の音もしない。孤独が急に襲ってきた。窓の外を眺める。顔が胡座をかいている。顔の向こうの小さな明かりに人恋しさを覚える。そして昔を思い出す。

テニスを初めたのは、大学一年の秋でした。理由もなく休んだ次の日、友人のF、M君に「君もテニス同好会に入ることにしておいたよ。」と一方的に言われました。テニスとの付き合いはこんな冗談じみた悪戯から始まりました。

当時、硬式庭球クラブは、まだ同好会でありコートも軟式庭球クラブのコートを借りたり、近くの大学のコートを借りたりしていました。

二年の春、同好会として初めての合宿がありました。宿舎は、今にも壊れそうなお寺で、コートは、ある紡績会社のものでした。晴天にめぐまれ、顔も手も足も、すっかりソック色に焼け、塩でザラザラになりました。ある先輩に、「日焼け止めクリームを付けてあげれば良かったね。」と言って冷やかされた程でした。そして夜は、昼間の疲れを忘れ、夜のふけるまでギターを弾んで歌いました。

合宿の最終日にダブルスの試合がありました。まだストロークも満足にできませんでした。況やサーブやボレーは言うに及ばせん。

コートの端でコチコチになり、ネットにヒットタリとくっつき、不幸にもボールがくると、仕方なく飛付く有様でした。全くまぐれに、ラケットの端にボールが当り、相今コートに戻っていきました。それでも皆が、いっせいに拍手し「ナイスボレー」と声をかけてくれました。それによって非常に勇気つけられたものでした。

このように楽しい同好会でありましたが、その後友人のM君が病気のため、F君が他クラブとの掛け持ちのため、同好会をやめてゆき、また、私も時間的なことからテニスから足遠くはなっていくました。それから数年長時間通勤の無くなった今、無性にテニスが恋しくなりました。

# 毎日トーナメントに参加して

武谷千枝子

いつも大きな試合は、平日に行なわれることが多く、仕事を持っていると、なかなか出る機会に恵まれないのですが、今年は幸いにも夏休み中に、毎日トーナメントがあるという事で楽しみにしていました。このトーナメントは、毎日新聞主催で、もう54回の歴史があり、かなり権威のあるものですが、1500円(今年は)出せば、誰でも参加でき、予選一回戦から三セット・マッチという門戸を大きく開けた大会です。

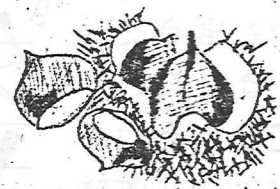
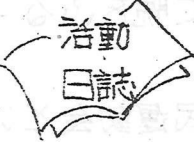
出場者が多数のため、男女単複共予選制度があり、各予選ブロックの優勝のみ本選入りが可能というシステムになっております。ただし一定の実績のあるものは初めから本選にランクされています。今年の予選では、女子の場合、シングルスでは、300人の出場者があり、それを16名位づつのブロックに分けて予選リーグが行はわれました。

私としては、予選三回戦位まで行けることが目標でした。シングルスでは予選決勝まで進むことができましたが、無念にも本戦入りを果たすことができませんでした。しかしダブルスは、本戦入りができました。本戦一回戦では、全日本学生10、4のペアと当り、こってりと負かされは致しましたが、普段めったに勝負することのない経験と試合ができたことだけでも幸いでした。これからの練習の励みになり、また新しい目標ができました。

8月12日のダブルスから始って、シングルス・ダブルスと連日続き、ダブルス本戦の一回戦で負けたのは、8月22日でした。一日一試合しかないのに、一日中練習をやったように疲れました。普段の練習ゲームとは違って全身全霊を使っての真剣勝負で緊張の連続でした。また試合中は、私個人の体調ばかりでなく、家族にも支障なく夕方遅くなくても、子供を見てくれる人など、周りの人の支援もあって、試合に打ち込め、勝ち進むことができましたのだと思います。それからシングルスは、狼狽との戦いのようなものですが、ダブルスはお互いに励まし合い、お互いの長所を最大限に発揮し、弱点をカバーしながらや

ってゆけるゲームで、お互いの信頼関係が、技術と同じ位大切な役割を果たすとつくづく感じました。そういった意味で、私にとってテニスが大きな比重を占めれば占める程、技術面もさることながら、日常生活などが、大げさにいえば、人生までもが非常に大切なものにならざるを得ないと思えました。それからそのことが、技術を取得していく上でも、ミスにならばはね返ってくるのだと思います。

今後、私達のクラスでも、ぜひ多くの方々から、機会をとらえて大胆に对外試合に参加し新鮮な空気を吸って来て、血と肉にして欲しいと思います。



- ◎7月25日～27日：夏合宿(主催・東住・恩多テニスクラブ)
- ◎8月2, 3, 9, 10日：テニス教室(主催・東村山硬式テニス連盟)
- ◎6月29日：オニ回飯田舊テニス教室(主催・新体連)
- ◎7月30, 31日, 8月1日：新体連テニス教室(主催・新体連)
- ◎8月20, 21, 22, 23日：送予強化合宿(主催・新体連)
- ◎9月14, 15, 16日：テニスフェスティバル(主催・新体連)
- ◎9月7, 14, 21日：市民体育大会(主催・東村山市)
- ◎クラス対抗戦(主催・硬式連, 現在進行中)

## 編集後記

カ2号から4ヶ月程たちました。原稿を寄せられた方にお礼を致します。オ3号は寄稿文を中心に編集しました。今後は編集スタッフの強化をはかって、定期的な発行できるようにする必要があると思います。クラス員の皆さんの積極的な御協力をお願い致します。

